

## 地震防災対策 3

### 初期対応と活動エリア

#### 発表者用原稿

## 地震防災対策3「初期対応と活動エリア」

東日本大震災は想定を超えた大規模なものでした。

病院のみならず、大半の自治体で、災害時のマニュアルは役立たなかったのが実情です。病院、医療・介護施設における災害対応について、東日本大震災をもとに解説しましょう。

東日本大震災は想定を超えた大規模なものでした。病院のみならず、大半の自治体で、災害時のマニュアルは役立たなかったのが実情です。

病院、医療・介護施設における災害対応について、東日本大震災をもとに解説しましょう。

### (1) 常識と想像力と危機管理能力

大災害時には、対応を単純に。  
論理的整合性にこだわると、複雑になり、実行不可能になる。  
マニュアルを見直し病院にあった簡潔なマニュアルを作成する必要。  
自衛消防組織の設置・届出  
自衛消防とは、「火災、地震その他の災害等による人的又は物的な被害を最小限に止めるため、事業所で行う必要な措置の総称」と定義されています。  
自衛消防隊、自衛消防活動、防災センター、防災センター要員、自衛消防活動中核要員、自衛消防組織、統括管理者、自衛消防要員、告示班長、自衛消防業務講習修了者等の定義が並ぶ。通報連絡班、初期消火班、避難誘導班、応急救護班などを設置し、それぞれを告示班長が統括することになっている。  
入院患者の避難誘導は看護師の主要任務の一つ。  
病棟では護送、担送すべき患者の数は常に把握されている。  
組織横断的な自衛消防隊を設置するとすれば、既存組織にない機能や既存組織の補助・支援に限定しないと矛盾が生じるので自衛消防隊の機能はできるだけ既存組織が担うようにすべき。

### (1) 常識と想像力と危機管理能力

大災害時には、対応を単純にしないと動けません。論理的整合性にこだわると、複雑になり、実行不可能になります。現状のマニュアルを見直し、常識と想像力と危機管理能力で、それぞれの病院にあった簡潔なマニュアルを作成する必要があります。

消防法の改正で、施設の建物の階数や面積が一定の条件を超えると、自衛消防組織の設置・届出が義務付けられることになりました。

東京消防庁の「自衛消防隊の組織編成基準」の冒頭に、自衛消防とは、「火災、地震その他の災害等による人的又は物的な被害を最小限に止めるため、事業所で行う必要な措置の総称」と定義されています。これに続いて、自衛消防隊、自衛消防活動、防災センター、防災センター要員、自衛消防活動中核要員、自衛消防組織、統括管理者、自衛消防要員、告示班長、自衛消防業務講習修了者等の定義が並ぶ。通報連絡班、初期消火班、避難誘導班、応急救護班などを設置し、それぞれを告示班長が統括することになっている。これらを、通常の機能している組織内部に置くといふとかなり複雑になってくると思います。

病院には何種類かの通報連絡設備があり、担当部署が運用と保守点検に当たっています。入院患者の避難誘導は看護師の主要任務の一つで、病棟では護送、担送すべき患者の数は常に把握されています。

救急部は応急救護の専門家集団であり、災害対応のために普段と異なる職務の訓練を本格的に行うとすれば、本来の職務を阻害し、結果として病院の機能を低下させる可能性があります。

組織横断的な自衛消防隊を設置するとすれば、既存組織にない機能や既存組織の補助・支援に限定しないと矛盾が生じますので自衛消防隊の機能はできるだけ既存組織が担うようにすべきです。

## ( 2 ) 指揮官

迅速に集まれる病院幹部が集まって、当面の指揮官を決定し、災害本部を立ち上げます。  
地震防災対策を学習したリスクマネジャーおよび地震防災対策マネジャーを指揮官に選出することが望ましい

通常の火災は、仕組みさえ作っておけば、自動的に対応できますが、大災害への対応は指揮官が必要

病院の運命を決める重要な決定を下さなければならない場面が生じる為、本来、指揮官には、病院の最高責任者が就任すべき

状況を把握して職員に説明し、行動の方向を決めるのが指揮官の役割

常に状況を観察しつつ、判断が正しいかどうか検証する。必要があれば、適宜修正しなければならない

## ( 2 ) 指揮官

迅速に集まれる病院幹部が集まって、当面の指揮官を決定し、災害本部を立ち上げます。

病院幹部の定義は病院ごとに決めればよいのです。危機管理に不向きな管理者が、指揮官に選ばれないように工夫する必要がありますので、地震防災対策を学習したリスクマネジャーおよび地震防災対策マネジャーを指揮官に選出することが望ましいのです。病院の日常業務の多くは、指揮官がいなくても回っていきます。

通常の火災は、仕組みさえ作っておけば、自動的に対応できますが、大災害への対応は指揮官が必要なのです。

病院の運命を決める重要な決定を下さなければならない場面が生じる為、本来、指揮官には、病院の最高責任者が就任すべきです。

指揮官は災害対策本部の設置を院内に周知します。病院がどのような状況にあるのか、現場で忙しく働いている職員には分かりませんので、状況を把握して職員に説明し、行動の方向を決めるのが指揮官の役割なのです。

病院から逃げ出す必要が生じたときに、指揮官が逃げると決めて号令しなければ、大混乱が生じます。指揮官は右往左往してはならないが、判断を固定化してもいけません。常に状況を観察しつつ、判断が正しいかどうか検証して、必要があれば、適宜修正しなければならないのです。